

Hokkaido: A Home for Adventure Travel

北海道：アドベンチャートラベルの”ホーム”

Dr. Mark Brazil (マーク・ブラジル)

1. 北海道：アドベンチャートラベルの”ホーム*”

(*「ホーム」には通り過ぎるだけでなく、何度も帰ってきたいところ、長期間滞在するに相応しい素晴らしいところ、という意味が込められている。)

こんにちは。皆様にご参加いただき、感謝いたします。私は、**1982**年以來新聞や雑誌への記事の執筆、テレビ、ラジオ、講演、さらに海外企業来訪時のガイドの仕事を通して、日本、特に北海道を紹介してきました。

私がこれからお話するのは、北海道におけるアドベンチャートラベルの学術的価値・評価や、経済的重要性についてではありません。私は**34**年間、日本でネイチャーガイドとして、欧米人旅行者に、鳥や哺乳類その他の野生生物を見せるガイドをしてきました。

この経験、つまり私自身の、アドベンチャートラベルを通じての個人的な視点からお話したいと思います。

2. アドベンチャートラベルが、世界で生み出している価値

世界でのアドベンチャートラベルの消費額は、現在 **2,630** 億ドルと見積もられています（日本円では、**26 兆 3000** 億円—飛行機代を除外した金額。）さらに、アドベンチャー用の道具、衣類、その他付属品に **820** 億ドル（日本円では **8 兆 2000** 億円）が費やされています。

これは増加傾向にあり、同時に北海道にチャンスがあることを意味しています。

ATTA (アドベンチャー・トラベル・トレード・アソシエーション) の調査によると、アウトバウンドの出発数のパーセンテージでは、欧米圏（ヨーロッパと南北アメリカ）が全世界の 70% を占めています。

出典 : The Adventure Travel Trade Association

[(ATTA, www.adventuretravel.biz), United Nations World Tourism Organization (UNWTO, www.unwto.org), George Washington University 2013 study.]

3. アドベンチャートラベル

ATTA はアドベンチャートラベルを、以下の 3 要素のうち、少なくとも 2 つを含む旅行形態と定義づけています。

- connection with nature 自然との関連性
- interaction with culture 異文化交流
- physical activity 身体活動

北海道にはこの全てがあります！

アドベンチャートラベラーを呼び込む大きな利点は、彼らが長期滞在する傾向があることです。短くても 1 週間、10 日から 2 週間にわたるのも珍しくありません。

4. 何故北海道がアドベンチャートラベルに向いているのか。

北海道の主な魅力は、その印象的な景観、素晴らしい風景、四季折々の風情、そして温かなおもてなしです。

ヨーロッパや北アメリカ、オーストラリア、ニュージーランドなどの国々と比べると、北海道には異国風な自然の魅力があります。

本州の歴史的、文化的特性とは対照的に、北海道は、より野生的でアウトドアに向けた条件を備えています。これはアドベンチャー旅行にとって、理想的であると言えます。

北海道は、地理的には極東ロシアに近いと言えます。しかし、一年中アクセス可能で、かつ安全であり、インフラが素晴らしいという点で、あちらとは異なっています。

北海道の皆さんは、北海道の何が欧米人にとって、特別に魅力的なのかと不思議に思われるかもしれません。では、いったい何が魅力なのでしょう。

5. 北海道の美しさ

北海道の多様な風景は、オーストリアやスイスに匹敵するものであり、ニュージーランドともよく比較されます。

北海道には、山脈、火山、美しい海岸線、魅力的な離島などに代表される、印象的な景色があります。

毎年々、私のゲストたちは、必ず北海道の美しさに感嘆し、口を揃えて、日本の中でも北海道は、自分たちのお気に入りなのだと話します。ですから、私は常に、北海道を自分の日本ツアー行程の最後にもってくることにしています。

北海道の野生生物の多様さは、オーストリア、スイス、そしてニュージーランドをも越えています。

私が引率するインバウンドツアーの参加者の多くは、バードウォッチング、野生生物観察、写真撮影を目的とする人達です。日本は既に、冬季のバードウォッチングや野生生物の写真撮影地として、世界でも最高の場所の一つとして知られており、中でも北海道は非常に重要な場所です。しかし、現在冬季のみに集中している人々を、他の季節にも広げられる可能性は、限りなく大きいのです。

6. 北海道の魅力 — 多彩な風景

私は欧米人のお客様を北海道の様々な場所、例えば大沼国定公園から知床半島、稚内・サロベツ原野から根室半島、札幌から大雪山国立公園、そして天売島、利尻、礼文島などへお連れしました。

彼らは、これらの場所の風景が変化に富んでいること、春は木々の芽吹き、秋には紅葉に彩られる色彩豊かな森、多くの利用可能な登山道や、野生生物の多様さに驚きを隠しません。

7. 北海道にとってのニッチマーケット

北海道は、このように、特定、複数のニーズにアピールする場所だと言えます。たった1つの興味のためだけに訪れる人々もいますが、他の人達は幾種類かの、もしくは多くの興味を持って北海道を訪れます。

なかでも特に魅力的なのは、アイヌ文化、バードウォッチング、登山、スキー、スノーボード、温泉、そして野生生物の写真撮影です。

他にも、質の高いアートやクラフト、野外芸術、カヌー、キャンプ、サイクリング、グルメ、フライ・フィッシング、カヤック、縄文の歴史、ウォーキング、ベア&ホエールウォッチングなどもとても魅力的です。

これらは、憶測に基づく提案ではなく、全て外国人旅行者達が、北海道で既に体験していることです。そして彼らは、もっと経験したいと思っています。多くの旅行者達が、これらのメニューを組み合わせ楽しんでいきます。しかし、(北海道で何ができるか、というような)外国人に向けた情報の発信は、著しく限られています。

8. 北海道とネイチャーツーリズム 1

先ほども申し上げたように、北海道の雄大で広々とした風景は、欧米人にとって非常に魅力的です。

北海道は、私が30年以上にわたり、自分の執筆活動を通じて紹介してきた場所です。最新刊である「The Nature of Japan」でも、道東の野生生物について、多くのページを割いています。

北海道の強みは、アクセス可能な山々、美しい湖、離島などが近くにあることです。そのような場所でのウォーキング、登山やサイクリングは、楽しく、便利です。

北海道に生息している大型哺乳類や稀少な鳥を、簡単に見ることができることも、北海道の利点です。中でも、丹頂鶴には、あらゆるタイプの旅行者が高い関心を示します。ヒグマ、ミンククジラやイルカ、白鳥、オジロワシ等も、自然好きの旅行者には人気があります。

9. 北海道とネイチャーツーリズム 2

一般的な自然派の観光客以外に、鳥または写真撮影に強い関心のある旅行者達があります。彼らの関心の対象は、時に非常に限られています。この種の人々は、象徴的な1種類の生物に魅せられていたりします。

丹頂鶴は、自然が好きな旅行者達が被写体としたい鳥の代表格として、最もよく知られています。

しかし、私が東アジアで最初に夢中になった鳥は、オオワシでした。このたった1種類の鳥のために、世界中からバードウォッチャー達が北海道にやって来るのです。彼らの多くは、この鳥を見るためだけのために、知床半島や根室半島に幾日も滞在します。

他にも、冬のねぐらに居るエゾフクロウや、世界でも最も珍しい鳥であるシマフクロウなど、欧米のバードウォッチャーや写真家の垂涎の的である種類がいます。

夏には、愛好家はノゴマや、東北海道沿岸を渡りで通過する多くの海鳥、天売島で繁殖するウトウなど、特別な鳥を捜し求めます。

季節ごとに、別の楽しみがあるのです。

10. 北海道の魅力と多様な旅行者

騒音が気にならず、大人数で楽しむことが可能な日本の大都市には、マストツーリズム（団体観光旅行）が適しています。しかし、このような観光スタイルは、地方には向きません。では、北海道の地方は、どうすればアドベンチャーツーリズムの恩恵を受けることができるでしょうか。

北海道には、地方ならではの娯楽やアクティビティがあり、単独で旅行を楽しみたい人や、カップルまたは家族連れで旅をしたいアドベンチャートラベラーに適しています。

多くは少人数、またはガイド付きの6人から18人くらいのグループです。

また、エクスペディション・クルーズ船で旅行する人々もいます。多くの場合一度に最大 120 人ほどが乗船していますが、船は室蘭、稚内、網走、釧路のような港に寄港し、乗客達は夫々の港をエクスカージョンの起点として、小さなグループに別れて観光に出掛けます。そのメニューには、通常自然観察や、アドベンチャーが含まれています。

このような旅行者の使う宿泊施設のタイプは幅広く、大規模な団体向けのホテル、温泉旅館、小規模な高級ブティックホテルや家族経営のホテル、民宿、キャンプサイトと多種多様です。旅行者の多くは富裕層であり、2~3 週間日本を旅行することも、稀ではありません。

食事をする場所も、コンビニから地方の食堂、最高級のレストランまで様々ですが、その場所で自分達が見つけれられる最高の場所で食事をします。

北海道では、食の選択枝は非常に幅広く、全ての好み、年代、所得レベルに対応が可能です。

11. 北海道に欠けているもの - 言語の問題、ガイド、交通手段

北海道は素晴らしい場所ですが、いまひとつ欧米人観光客を呼び込めていないのは何故でしょうか。何が欠けているのでしょうか。

長きにわたり、日本を訪れる外国人にとって常に問題なのは、言語です。1980 年代から比べると改善はみられるものの、いまだに一般人や（観光地で）働いている人々の中で、英語やロシア語、中国語を話せる人は少数です。しかし、北海道でこれらの言語が通じれば、非常に価値あるおもてなしとなります。

2 つ目の問題は、適切なガイドがいるかどうかです。

国家資格である通訳案内士制度がカバーしているのは、文化や歴史分野だけです。

北海道の大きな魅力は自然やアウトドア体験ですが、そのガイドができる（外国語のできる）人材不足の問題は深刻です。また、この種類のガイドを認定するための、適切な資格制度もありません。

私は、仕事上日本で多くの有能な通訳案内士に会いましたが、彼らには良いネイチャーガイド、アウトドアガイドになるために必要な知識と関心が不十分です。また、大勢の秀れたネイチャーガイドにも会いましたが、外国語が話せない人がほとんどであり、また、（自分の住んでいる場所以外の）日本全体についての幅広い知識が不足しています。

ここに私のジレンマがあります。私は過去 **34** 年間、南は西表島から北は北海道まで、数え切れないほど日本中を旅してきました。そして、日本の動植物を含む自然についての本や、日本の野鳥ガイドブック (***Field Guide to the Birds of Japan***) も書きました。しかし、現在の日本のガイド資格制度の下では、私はガイド資格がありません。

私は海外での商談会や講演を通じ、北海道の自然について、一生懸命宣伝してきました。しかし、私が出会った、海外のアドベンチャートラベル関係の旅行社や個人が、北海道旅行の計画を希望したとしても、北海道には十分な数の適切なガイドがいません。さらに、ガイドが顧客の移動のために、運転することが許されていないという問題もあります。この問題が、今以上に道内の旅行業界を活性化させることをほぼ不可能にしています。

北海道には、アドベンチャートラベルのための資源がありますが、成功していません。それは、顧客の要望を充たしていないからです。

12. 北海道に欠けているもの：可能性のあるターゲットへ向けた的確な宣伝

JNTO (日本政府観光局) は、マス・ツーリズム市場を対象とした、日本の主な観光地については、効果的な宣伝を行っていると思います。

しかし、ある分野もしくは特定の地域に関心を持っている外国人旅行者向けにはアピールできていません。このため適切なマーケティングが欠如する結果となっています。

私は毎年、世界でも最大級の動植物を含む自然に関連する国際旅行見本市に参加しています。例年 8 月に英国で開催されるこの会議に私が参加するのは、日本について宣伝するためです。しかし、残念ながら JNTO はこの会議に参加していませんし、そこでの日本の広報活動もサポートしていません。他の多くの国々は、国の観光庁/省の職員達をこの催しに派遣していますが、日本や北海道を代表する団体は参加していないのが実情です。

日本のアドベンチャートラベル市場は、現在はまだ小さいかもしれませんが。しかし、適切な広報活動が行われ、国際メディアでの露出が増えれば、大きく成長する可能性があります。

そうなれば、地方の旅行会社に利益をもたらすことになり得ます。但し、それには外国語対応が充分でき、様々な顧客の要望に対応できることが条件です。

13. 北海道に欠けているもの：欲しい情報がみつけれられる窓口

非常に具体的で詳細な情報は、既に相当量存在しています。しかし、自分の欲しい情報を見つけるためには、前もってそれがどこにあるか知っていなければなりません。

初めて北海道を訪れる人達は、必要な情報を得るために、どこを見れば良いか分かりません。

残念ながら、北海道には一回で用が足り、全体を網羅する旅行者向けのウェブサイトがありません。必要なのは、旅行関連の情報が一箇所にまとまり、さらに詳細な情報のリンクへと導いてくれるウェブサイトです。

さらに、アドベンチャー、ネイチャーツーリズムなどあらゆる旅行の観点を含み、北海道単体の英語版ガイドブックが無いことが挙げられます。

もし、北海道の観光関係者がアドベンチャーツーリズム、ネイチャーツーリズムを含む重要な情報を提供する、北海道単体のガイドブックの編集、出版を支援できるのであれば、それは素晴らしいことです。

14. 北海道に欠けているもの：選択可能なアクティビティの範囲を広げる試み

北海道では、既に多くのアドベンチャーアクティビティが提供されています。しかし、一部はその存在さえも認知されていません。このようなアクティビティは存在してはいますが、情報が乏しいため、外国人のアドベンチャーリストが実際に体験するのは非常に難しいのです。

この講演を準備している間、（既に存在しているアクティビティとして）思い浮かんだのは、気球、バックカントリースキー、キャンピングカーでの旅行、クロスカントリースキー、サイクリング、観光飛行、フライフィッシング、マウンテンバイク、スノーシューイングなどです。私には思い付きませんでした。実際にはもっとあるに違いありません。

北海道に於いて、インバウンド旅行者にこのようなアクティビティを提供するのは実に簡単ですが、実際にはまだきちんと紹介されては

いません。

北海道の風景は、空中から見ると非常に魅力的です。ですから、気球や軽飛行機による観光飛行は、きちんと宣伝しさえすれば、欧米観光客に大いにアピールする事でしょう。

ニュージーランドやオーストラリアでは、休日に個人でアドベンチャー旅行を楽しみたい人達のための、レンタル・キャンピングカーの巨大な市場があります。市場拡大の助けとなっているのは、キャンピングカーを駐車でき、電気や水の供給、汚水を捨てられるキャンプサイトがあることです。もし、同様の制度を北海道に導入出来れば、夏に北海道を訪れる人々の助けになることでしょう。

また、ノルウェー、フィンランド、スウェーデン、オーストリア、ドイツ、スイスなどの国々には、何千キロにも及ぶ整備された、クロスカントリーのコースがあります。長いスポーツの歴史の中で、クロスカントリースキーのようなスポーツは、北海道に適しているにも関わらず、まだ北海道ではあまり盛んとはいえません。

15. 北海道に欠けているもの：将来に向けた共同の試み

北海道は素晴らしく、心躍るアドベンチャートラベルの目的地です。

アドベンチャートラベルの市場はとてつもなく大きく、旅行者達は、常に新しい旅行先を探しています。そして、北海道が将来その一角を担うのは難しい事ではありません。

もし、地方の旅行業者が、地域の観光関連の業者、ガイド、宿泊施設と協力して、それぞれが提供しうる情報を統合し、北海道のまとまった情報を発信することができれば、多くの外国人旅行客を呼び込める可能性が非常に高いことは間違いありません。

私が最初に北海道のバードウォッチングや野生生物観察を海外へ紹介したとき、アドベンチャートラベルの市場はまだ小さいものでした。その後、この30年ほどの間に、この市場は劇的に成長しました。しかし、それでもなお、実際に可能な規模と比較すると、まだ小さいと言えます。

私達が一丸となり一致協力すれば、北海道を、世界でも有数のアドベンチャートラベルの目的地として周知させることができます。

16. 謝辞

ご静聴ありがとうございました。

*本稿の著作権は、Mark Brazil 博士に帰属します。

無断転載はご遠慮下さい。